

ネパール・低ヒマラヤ帯における斜面災害軽減にむけての試みとインフラ開発

八 木 浩 司 (山形大学教育学部)

ヒマラヤ地域の山地斜面は、激しい断層運動で脆弱化した地質の場を急速な谷掘れが進むことでその安定性が低下している。さらに雨期に集中する降雨が引き金となって山地斜面はきわめて崩壊しやすい。とりわけ低ヒマラヤ帯の山地斜面は、周辺地域を含め約1億の住民の生業の場でもある。そこで多発する山地斜面の地すべり・崩壊は、住民の生命・財産を破壊するにとどまらず、道路・電力施設などのインフラ開発を進める上で大きな障害となっている。演者はネパール低ヒマラヤ帯におけるインフラ開発に欠くことのできない斜面災害軽減にむけての国際協力の実状と問題点、及び地理学関係者の果たせる役割について述べる。